

1931年江別市元江別で江別古墳群が発見され、1934年江別古墳群と恵庭市柏木にある茂滝古墳群（柏木東遺跡）の発掘結果から、後藤守一により「北海道式古墳」という名称が提案された。これは古墳時代に本州各地で造営された古墳とは異なる、墳丘を持たない墳丘が意味で名づけられた。しかしそれは意見が古墳が古墳に当たらないという研究が分かれ、古墳ではなく墳丘墓とした研究者もおり、また古墳の一種とする研究者の中からも1960年代に「末期古墳」という名称が提案された。

その後、青森県や岩手県などで北海道式古墳に類似した墳墓が次々と発見され、北海道式古墳に代わって末期古墳という名称が広く用いられるようになった。

しかし、現在でもまだ末期古墳が古墳であるかどうかについては確定しておらず、「蝦夷系墳墓」という名称も提案されている。

つづく）
十（しらす）
に、錦袍
のきぬは
鮮紺（ひ
しきぬ）・
（ら）を賜
小学館版
③（）大
鹿島（渡
も今の北
だという
）。では
道長もふ
の和（巻
）から来た
東北地方
る。蝦夷
たちであ
は東北北
した古墳時
子孫であ
は国家の
てエミシ
いました。
旨の記述
この墓が伊
墓であり、
八皇から下
のと言ひ
が、少し疑
が、面白い
イヌ史研

究の最前線にいる瀬川拓郎さんの『アイヌと縄文』（ちくま新書）などを参考にしながら、もう少しこの時代の恵庭の周辺について考えてみたい。

飛鳥・奈良時代の北海道は、縄文時代から擦文時代に変わり、北方からはオホーツク文化も入り込み、次の三ツタニ時代（アイヌ文化）へと繋がる時代である。渡島に来たエミシたちは実は、日本海側からと太平洋側からと二つのルートがあり、その背景は違う。

七世紀に国家の命で阿倍比羅夫が北海道遠征をします。この遠征は、縄文文化との直接交易を目指す主権が、東北北部のエミシを頭越しにして日本海ルートの交易体制を確立しようとするものだった。それは実現する。この直後に、東北北部太平洋側のエミシた

ちは苫小牧方面から上陸し、内陸の十歳恵庭・江別、さらに札幌へと進出します。この地帯を石狩低地帯という。当時、石狩低地帯は、縄文人の拠点だった。道北と道東はオホーツク人の影響下にあった。縄文文化と進出したエミシの関係は融和的だった。何故、太平洋側のエミシは北海道に移住したのか。瀬川さんはこう指摘する。

《北海道との交易を担ってきたかれらにとって、その交易が比羅夫の遠征によって日本海ルートで国家に集約されていく状況は、きわめて深刻な意味をもっていました。かれらの北海道移住は、国家に對抗して縄文文化との交易を確保し、縄文文化を東北北部太平洋側につなぎとめるためだったのです。》

ちなみに、交易品は、サケ・オオワシの尾羽・干アワビ・アシ

力の毛皮・熊の毛皮など。

恵庭に進出した和（巻）人たちの置の源泉は交易だった。そうした背景のなかで、柏木東遺跡の北海道古墳を作らせる力と富があった。

移住者の遺跡は九世紀代になるとみられなくなるのは、移住者が擦文人と同化したからだと思う。瀬川さんは、エミシが引揚船で多く東北に帰ったという驚くべき説を披露。稲作などが根づかないから。北海道古墳も、その後消えてしまっ。

それにしても、どうして蟬形の栗形をつけているのか。下賜された時から付いていたのが、それとも伊奈理武志が付けたのか。伊奈理武志は「虫」が好きだったのか。なんだか興味が尽きない。

（S）

＜本の紹介＞
呉座勇一『応仁の乱
～戦国時代を生んだ大乱』
（中公新書 二〇一六年）

この地味な本が四万部近く売れているという。驚きである。専門書ではない。啓蒙的な歴史書であるけれど、決して読み易いとは言えない。しかもテーマとなっている応仁の乱（一四六七～七七）そのものが、だらだらと一〇年近く続いた東軍と西軍の戦いであり（関ヶ原の東西軍の戦いと比較すれば、

その曖昧さは一目瞭然）、覚えられない程の登場人物たちがいて、誰が勝ったのか負けたのか、はっきりせず、昨日の友は今日の敵と離合集散が何度もあり、と時代そのものがわかりづらいのである（まあ面白いと言えば面白いのだけれど）。日本中世史は、地味

で停滞していたと思われていてあまり人氣がなかった。ところが網野善彦『無縁・公界・桑名（一九七八年）』が刊行されて俄然様相が変わってきた。いま日本中世史は活気があって面白いのである。若い優秀な研究者も多い。呉座勇一もその一人。本書の面白さは、この分かりづらくて曖昧な応仁の乱を分析

記述するために、この時代を生き延びた二人の高僧の膨大な日記を精緻に読み解いて、まるでこの乱の渦中に入って目撃しているかのような臨場感を出している点だ。二人の僧とは、共に興福寺僧だった（浄賢（長壽寺山号）と尋尊（『大乗院寺社雑事記』）である。歴

中世史家の間で無論これらの史料は周知のことであつたが、ここまでニュートラルに精緻に読み解いた研究者はいなかったのではない。他の膨大な史料なども駆使しながら、まるで日々の動きを追うかのような記述が面白い。しかも記述は、要を得て簡潔で分かりやすい。ここが受けたのではないだろう

寄せは結局、飢饉で苦しむ「百姓」らの上に被さつて来る。マルクス主義の階級史観を批判するのは構わなければいい。たい応仁の乱の間、一握りの支配階級ではなく民衆はどうしていたのかを浮き彫りにしてくれ、と云



て面白いけれど、それだけではない。あらゆる書の内容は、源泉は、「百姓」ら民衆の労働にある。その「あがり」を搾取して天皇も貴族も將軍も台頭してきた諸大名も齋沢三昧の暮らしが成り立っている。その既得権争いが、戦い・乱に発展するが、どちらが勝っても、そのしわ

も歴史家ではないというところ。文章が分かりやすいというよりも軽いのである。呉座は本書のなかでも、マルクス主義史観を批判しているが、ではそれに代わる史観を打ち出しているかと云えば、それはない。新しい史料、あるいは従来からの史料などを精緻に読み込んで、新たな歴史的事実を出してき

て面白ければ、それだけではない。あらゆる書の内容は、源泉は、「百姓」ら民衆の労働にある。その「あがり」を搾取して天皇も貴族も將軍も台頭してきた諸大名も齋沢三昧の暮らしが成り立っている。その既得権争いが、戦い・乱に発展するが、どちらが勝っても、そのしわ

ていいのであります》（一九二一年）と大胆な発言をして波紋を上げた。ここには史観がある。この見方が違つたならば、どう乗り越えるのか、現代の歴史研究者たちに問われている。本書のお陰で、四十五年前の鈴木良一『応仁の乱』を読むことが出来てよかった。鈴木良一の辛辣で鋭い分析・記述に感心した。（S）

お知らせ
多民族芸能楽団
「わたら」の公演
何だかよく分からないけれど、実力派四人が、時に集まり公演する。
どんな民族楽器や音楽が出るのか、お楽しみ！
日時・会場
七月一五日（土）
一八時半開演
新栄寺（札幌市中央区南7・西3）
七月一六日（日）
一四時開演
大成寺（当別町）
前売り 二五〇〇円
当日 三〇〇〇円

寇〜「倭寇図巻」と「抗倭図巻」〜
(吉川弘文館 2014年)



東京大学史料編纂所編
描かれた倭寇
「倭寇図巻」と「抗倭図巻」

◆
新発見の「抗倭図巻」
日中両国に残る二つの「倭寇図巻」の謎を追う。
(オールカラーワイドで再現)

◆
本邦初公開!

吉川弘文館
定価 (本体2,500円+税)

なかった。ホイアンの(世界遺産)で、そこに町があった。そこが森林地帯、ソン遺跡、時、豊満を前にし

日本人町はいつ頃形成されたのか。また研究途上ではっきりとしない。朱印船貿易(生糸と絹織物を求めて)で栄え、1000人以上の日本人が住んでいたと漠然と言われているが、朱印船時代(1592年に始まる)になって初めて日本船がエ

の土地となった航路。ルートは誰が敷いたのか。そこで浮が上がるのが、「倭寇」の存在である(と米ウは推測している)。

◆
「倭寇(むこう)」とは、アジアの海を

士豪・沿岸漁民が武装して私貿易を営み、しばしば海賊化して高麗および李氏朝鮮を悩ましたもので、後に大陸沿岸で活動した時には多くの明の乱民が加わっていた。朝鮮・明国は室町幕府にその禁圧を求め、近世初期にその活動は終息した。

た倭寇と、16世紀に中国大陸・南海方面に展開した倭寇である。》(『日本歴史大事典』小学館) 14〜15世紀の倭寇を前期倭寇という。16世紀の倭寇を後期倭寇という。その規模も、小舟で箱庭みみたいな海の暴れん坊などのちやちなも

てウエトナムの歴史については何も知らなかったな」と改めて思い知らされた。特に、ホイアンの「日本人町」には驚いた。「茶屋新六交趾国貿易絵図」には、17世紀初頭の日本人町の情景が生き生きと描かれている。ホイアンの海のシルクロード博物館には、備前焼などの陶磁器が多数展示されていた。いったい、この

トナムの海港へ交易に訪れたわけではない証拠は幾つもある。逆に、所謂「鎖国」政策で朱印船時代は1635年に終わるが、その後もホイアんに日本人商船が来ていた証拠もある。公式の朱印状発給数を大きく上回る日本商船の活動もあったことも、幾つかの証拠がある。今後の研究に待ちたい。

朱印船時代の到来

暴れまわって略奪を繰り返す日本の海賊という程度のイメージしか恥ずかしながらボクにはなかった。現に、小学館版『日本国語大辞典』にはこう書かれている。「日本の盗賊。倭人の群盗。特に、鎌倉末・室町期に、朝鮮半島・中国大陸沿岸を襲った日本の海賊を、朝鮮・中国側で呼んだ呼称。はじめ北九州や瀬戸内海の

八幡(はほん)、歴史事典はもう少し慎重に記述されている。『朝鮮半島・中国大陸および南方諸地域の沿岸や内陸で行動した海賊集団に対して、朝鮮人や中国人がつけた呼び名。語義は「日本人の略奪」だが、...歴史上の概念として倭寇が用いられるのは、主に14〜15世紀に朝鮮半島から中国大陸の北部に展開し

のではなく、400〜500の船団、1000〜3000の歩兵、1000を越える騎馬隊などで構成され、沿岸のみならず内陸にも侵攻しているというから認識を改めないといけない。高麗や中国(宋・明)が、しばしば日本の権力者に使者を派遣して、倭寇の取り締まりを要請してきたのも頷ける規模である。

その構成員も、前期倭寇では、①日本人のみ、②日本人と高麗・朝鮮人との連合、③高麗・朝鮮人のみ、などが考えられるが、①のケースは少なかったようだ。日本人は対馬・高麗・松浦地方の住民。高麗・朝鮮人は賤民や流亡農民らである。後期倭寇も「真倭」と言われた日本人の割合は10〜20%にすぎなく中国人が多い。明の支配体制からはみだした中国人の密貿易者や流民、正規の通交者であることを証明する「勘合」をもたない日本人、貿易許可の得られないポルトガル人など、中国側からみて非合法的な海民集団が一括して倭寇とよばれた。本書はまさに、この後期倭寇が活躍し、それを取り締まる明

正規軍との戦いを描いた中国で制作された絵巻の全体の本邦初公開であり、その分析・研究成果を分かりやすく紹介した書である。境界的で多様な性格を帯びた倭寇のイメージが浮かび上がってくる好著である。

◆
16世紀、東アジアの海域秩序を乱して跳梁跋扈した倭寇。その集団を明の正規軍が制圧に乗り出し、戦いに勝利し倭寇の指導者たちを処刑する。その歴史的戦いを言祝いで描かれたのが「倭寇図巻」(東京史料編纂所蔵)。縦32センチ・横23センチの長大な絹布に彩色された図である。明代の工房で描かれたものだ。日本史でも絵画史料として知られていたところが近年、中国国史博物館(北京市)に、「抗倭図巻」という、「倭寇図巻」にそっくりな絵巻が所蔵されていることが判明した。日本と中国の3年にわたる共同研究がなされ、その成果の一つこそが本書である。研究が進むと、孤立していた作品だと思われていた「倭寇図巻」には、多くの類

似した作品があり、倭寇を描く絵巻も「倭寇図巻」だけではなかったことが分かってきた。わくわくする。それにしても、歴と日本刀を両手に持って突撃する倭寇の姿は、戦場ではあり得ないが、中国人としての日本人のシンボルイメージとして繰り返して描かれているのは、笑ってしまう。 「倭寇図巻」と「抗倭図巻」を徹底的に比較検討して、これらが描かれたのが、贋作のセンターともいべき江南の工房であり、とりわけ蘇州がその中心だったことを突き止めていく。それらは「蘇州片」と呼ばれ、単なる贋作ではなく名画の複製・模本という明代の文化動向のなかでも重要な役割を果たしていた。「倭寇図巻」や「抗倭図巻」が、「蘇州片」だとすると、何を基にしてそれらを描いたのが問題となる。いわば、「原倭寇図巻」はあったのか。研究は途上である。本書は他に、文字資料が残っていないが、「文徴明がえがいた倭寇平定図」についての記事」というものがあり、それを解読すると、「平倭

図巻」の存在が浮かび上がってくる。また、民間絵画として「太平抗倭図」という絵画史料も紹介されている。これがまた面白い。城塞で丸く囲われた太平の町(現浙江嘉興市)に倭寇が襲来。民衆は投石して抵抗し、明軍は鉄砲を持って駆け付け、倭寇を撃退する様子を2メートル四方の画面いっぱい描かれている。城内と右翼を叩き割って石を作って運ぶ人やたたき折っている人たちが生き生きと描かれている。日中の共同研究による最新の成果をジューアルで紹介し、多角的に分析してわかりやすくまとめた本書。さらなる研究が深化することを予感させる。

「海賊」と「貿易商人」という倭寇の二面性を、境界の民という視点から捉える村井章介教授(日本中世史・東アジア交流史)は、前近代においては「領土」も「国籍」も「国境」も自明ではなかった時代に、人々が境界域をどのようにとらえていたのかに注目すべきだと、この指摘します。

《倭寇はかつて海賊行為で得ていたものを、貿易によって得

られるようになったということ。つまり、倭寇というのは、境界人がある条件において海賊行為を行つたときに、その海賊行為の側面をとらえて中国や朝鮮がつけた名前なので、その実体はあくまで境界人としての倭人であり、彼らや彼らの子孫は、倭寇沈静化後には貿易商人として認識されるようになった、という大まかな流れが見えてきます。》(『海がこぼれた』ポニ 2011年)

ウエトナムのホイアンの「日本橋」(1588年)に立つて、秀吉や家康の時代に朱印船貿易の隆盛が、この橋を、この日本人町をつくったのかという感慨に打たれながら、しかしこの航路は倭寇たちによって開かれて、その上に立って、「朱印状」といふのシールが貼られたのではないのか、という思いもするのである。

(清水 三重雄)

